

◆わくわく子ども里山キャンプ

みどり森でわくわくどきどきの1泊2日。友達と協力してご飯をつくったり生きものを観察したり、普段できない自然体験が待っています。

日時：7月30日(水) 10:00~7月31日(木) 15:00
対象：小学3~6年生 定員：20名
参加費：9000円
要申込：7月1日から7月13日まで申込受付します。

◆大人の自然観察会
~バッタ・コオロギ・キリギリス~

さまざまな動植物が見られるみどり森で、大人向けの自然観察会を行います。自然界の営みを再発見!

日時：8月31日(日) 9:30~12:00
対象：中学生以上 定員：20名
参加費：100円
要申込：7月31日から受付を開始します。

◆幼児とパパママで楽しむ自然あそび

幼児と保護者を対象にした短時間プログラムです。初秋の雑木林で親子のんびり過ごして遊びましょう。

日時：9月21日(日) 10:00~12:00
対象：4~6歳の未就学児と保護者 定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：8月21日から受付を開始します。

◆親子はじめての自然観察
~夜の生き物観察会~

親子向けの自然観察会です。夜のみどり森で生きものたちを観察します。

日時：8月2日(土) 17:00~20:00
対象：小学生と保護者 定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：7月2日から受付を開始します。

◆里山体験教室・特別編
池のかいぼりをしよう!

西久保湿地のため池の水を抜いて、かいぼり(池の底の泥の取り除き)と生きもの探しをおこないます。

日時：9月6日(土) 10:00~12:30
対象：小学生以上(小学生は保護者と参加) 定員：20名
参加費：100円(保険代)
要申込：8月6日から受付を開始します。

★イベントのお問合わせ・申し込み★

電話(TEL 04-2934-4396)で博物館までご連絡ください。また、公式ホームページからお申し込みできます。イベント内容等の詳細は、お気軽にお問合せください。みなさんの申込みをお待ちしております!

『みどり森週末ガイドウォーク』実施中!

上記イベントの他、第2土曜日と第4日曜日に当日募集型のガイドウォークを実施中。案内所や大谷戸湿地周辺をスタッフがご案内します。内容は毎回変わりますので、どんなテーマか、当日まで楽しみに!

7~9月までのガイドウォーク実施日(予定):
7月12日(土)、7月27日(日)、8月9日(土)、8月24日(日)、9月13日(土)、9月28日(日)
時間: 13:00~14:00(土曜日) 11:00~12:00(日曜日) 参加費: 無料(全ての日程で共通) / 当日案内所にて受付

博物館からのお知らせ

これからの時期、スズメバチやヘビなどを園内でも多く見かけると思います。一体、どんな生きものなのか?多目的室で、きちんと知ればこわくない!「野外のキケンな?生きものたち」を展示しています。散策前にちょっと立ち寄れば、新しい発見があるはず!是非、ご覧ください。

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生き物をむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物(外来種)を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。



発行:さいたま緑の森博物館
発行年月:2014年7月
住所:〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX: 04-2934-4396

開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
【公式HP】http://saitama-midorinomori.jp/
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

『閑さや 岩にしみ入 蝉の声』

松尾芭蕉も句に詠んだセミ。夏の季語として俳句にもよく登場するセミは、日本の夏を代表する昆虫です。

今回の特集では、みどり森で見ることのできるセミたちを紹介しします。セミは私たちにとって身近な生きものである一方、幼虫のときには長い期間を人目につかない土の中で過ごしていたり、意外と知られていない一面をもっています。

これを読めば、あなたもきっとセミ博士!? さあ、夏の森へでかけてみませんか? きっと沢山の面白い発見が待っていると思いますよ!

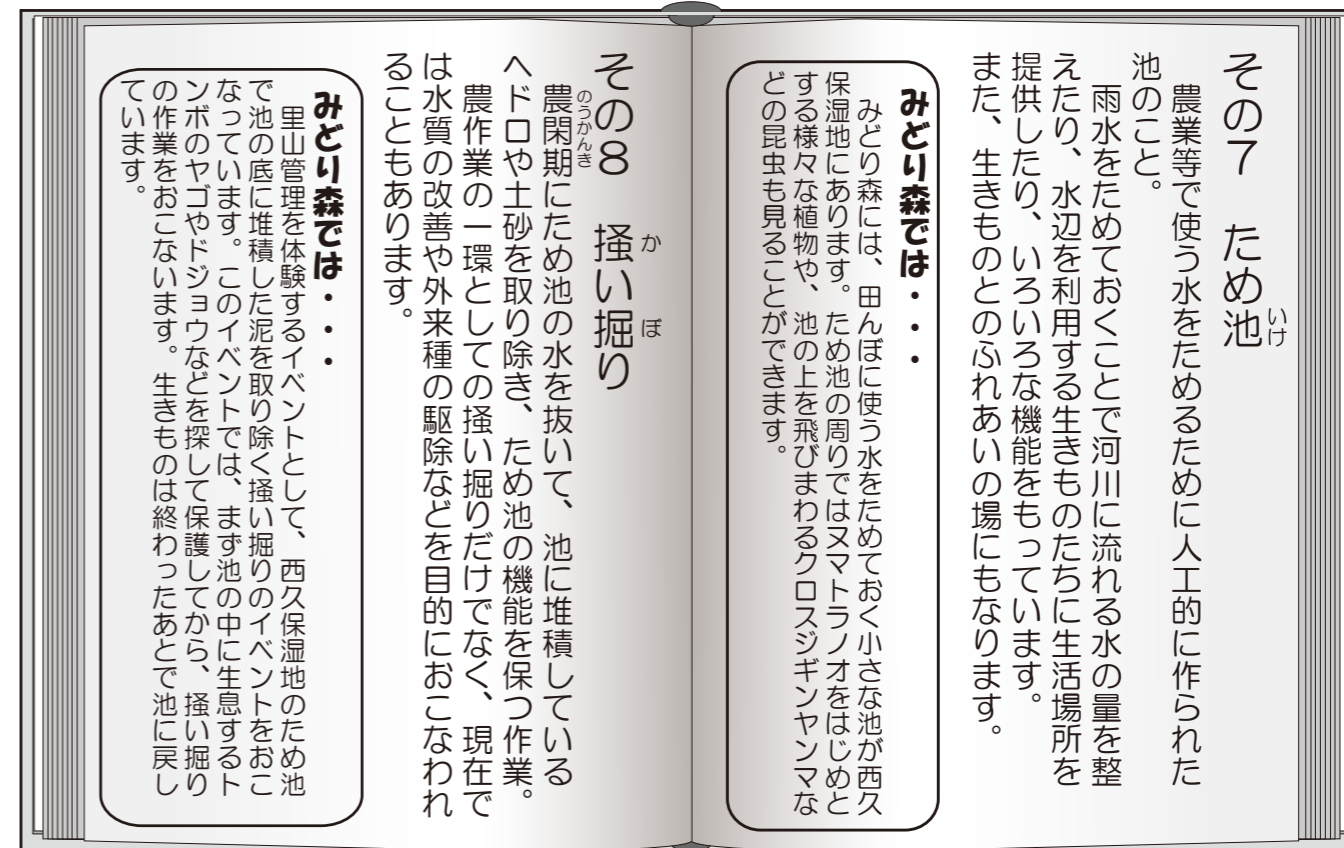


博物館からの大切なおねがい

これからの時期、みなさんの大好きなカブトムシやクワガタも多く見かけるようになります。みどり森は自然すべてが展示物ですので、動植物の採集はご遠慮ください。来年の夏も多くの生きものに出会えるように、観察したら逃がしてあげてくださいね!

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館のテーマである雑木林や湿地などについて、毎号キーワードを挙げて紹介してゆきます。今回は『ため池』と『掻い掘り』です。それぞれ人の生活と湿地との関わりのなかで必要だった場所・管理方法です。



みどり森で見られるセミ図鑑

種類ごとに、鳴き声・ぬけがらの形・見つかる場所に違いがあるので、それによってセミの種類を調べてみよう！

セミ博士になろう！

みどり森では5種類のセミを見ることができます。鳴き声をたよりに成虫をさがすのも楽しいですが、じつはもっと簡単にセミを見つける方法があります。それは・・・『ぬけがら』さがしです！
ぬけがらでセミの種類を調べることができます。また、見つけた場所を覚えておくと、セミの種類によってすんでいる場所にちがいがあることも見えてきますよ。

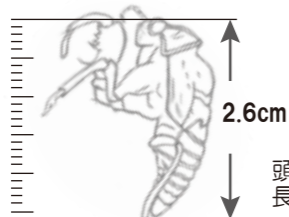
WANTED みどり森にはクマゼミもいる！？

なんとぬけがらの大きさは3.3cm以上！



クマゼミは西日本ではよく見られるセミですが、近年は東日本でも分布拡大中！みどり森で見かけた方は案内所スタッフまで！

まずは、ぬけがらの大きさを測って見よう！



頭の先からおなかの先までの長さは？

ぬけがらは2.6cmより大きい

ぬけがらは2.6cmより小さい

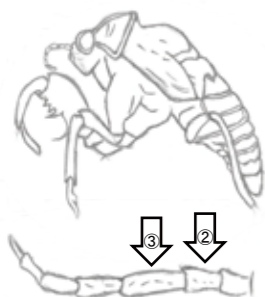
カラリと揚がりました！

アブラゼミ

幼虫は土の乾燥に強く市街地でも多く見られる。みどり森では、案内所前の柵でぬけがらがよく見つかる。

名前の由来は、鳴き声が油で揚げものをしていときの音に似ているため。

- ぬけがらが見つかる場所：色々な林
- 鳴き声：ジーーーー



ぬけがらの触角は第2節より第3節のほうが長い

しめりけ大好き ニイニイゼミ

夏のはじめに鳴きはじめる。みどり森では、湿生園のまわりでぬけがらが見つかりやすい。セミになるときは草ではなく木につかまって羽化することが多い。

- ぬけがらが見つかる場所：土がしめった林
- 鳴き声：チー---



ぬけがらは全身泥まみれ



日暮れの合唱団 ヒグラシ

薄暗い林を好むため、スギ林などに多いと言われている。案内所前の林で鳴いていることもある。成虫は夜明け前や夕ぐれ時など薄暗いときに鳴く。

- ぬけがらが見つかる場所：薄暗い林
- 鳴き声：カナカナカナ・・・



ぬけがらの触角は第3節より第4節のほうが長い



セミの音楽家 ツクツクボウシ

法師蝉とも呼ばれ、最も音楽的な鳴き声のセミと言われている。夏にみられるセミの中では一番遅く登場する。

- ぬけがらが見つかる場所：色々な林
- 鳴き声：オーシンツクツク・・・



おでこが前にとび出す



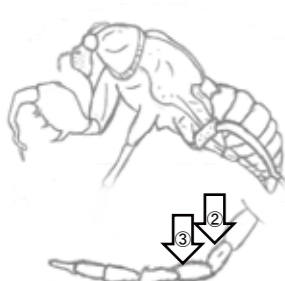
子どものときはそっくりさん？

ミンミンゼミ

幼虫・成虫ともに明るい林を好み、土の乾燥にも強いが、アブラゼミほど市街地では見られない。

幼虫の姿はアブラゼミとそっくりだが、触角で見わけることができる。

- ぬけがらが見つかる場所：色々な林
- 鳴き声：ミン・ミンミンミン---



ぬけがらの触角は第2節と第3節が同じ長さ

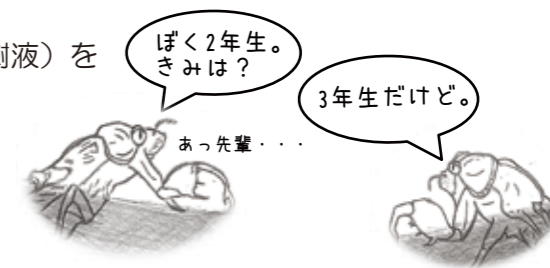


「いま鳴いているセミは何年生なの？」

意外と知られていない？ セミたちのひみつ①

私たちの身近にみられるセミは、およそ2年から5年ほどの幼虫期間を経て成虫になります。

ただ、成虫になるまでの期間は幼虫のときに食物（木の樹液）をどれだけ得ることができたかによって左右されるため、同じ種類でも3年で成虫になるものもいれば、5年でようやく成虫になるものもいるというわけです。また、成虫になってからはおよそ2～3週間でその命を終えます。



平成25年 みどり森のセミごよみ

去年はニイニイゼミが最も早く6月に鳴きはじめました。7月になるとヒグラシが鳴き、この2種は12週間もの間、鳴き声を聞くことができました。最も遅くまで鳴き声の聞いたアブラゼミでは11週間、ミンミンゼミとツクツクボウシで9週間の間、鳴き声を聞くことができました。今年はセミの鳴きはじめが少し遅いですが、はたして・・・？

	6月	7月	8月	9月	10月
ニイニイゼミ	6/23		12週間	9/16	
ヒグラシ		7/5	12週間	9/22	
ミンミンゼミ		7/17	9週間	9/20	
アブラゼミ		7/25		11週間	10/8
ツクツクボウシ			8/4	9週間	10/3

意外と知られていない？ セミたちのひみつ②

「セミたちのすみわけ術 ～こだわり派？それとも？～」

生きものたちは、食べ物などをめぐって互いに競争にならないよう、種類によって活動する空間（環境）や時間を変えて生きていく「すみわけ」をしています。では、セミの場合はどうでしょう？

ヒグラシは幼虫も成虫も薄暗い林を好みます。明るい林にはあまりいません。ある特定の環境で生活する「こだわり派」といえます。

これに対して色々な環境で生活できるアブラゼミでは、他のセミが多いと、それらの好みとは違う環境で生活します。

たとえば、クマゼミが多い地域のアブラゼミでは、幼虫はクマゼミの幼虫が多い土の乾燥した場所を避け、土のしめった場所を選んで生活したり、成虫はクマゼミの成虫が鳴く時間と重ならないように鳴いたりします。利用する環境を器用に変えていく「臨機応変型」といえそうですね。



※触角も見わけるポイントになるので、こわさないよう注意して観察してみてくださいね！

～参考文献～
橋本治二、1991、セミの生活、誠文堂新光社、284pp、林正美・税所康正、2011、日本産セミ科図鑑、誠文堂新光社、223pp、
増山貴一・藤崎健一郎・勝野武彦、1998、神奈川県高麗山における植生の違いによるセミ類種構成の差異、ランドスケープ研究、61(5)：535-540、
中尾舜一、1990、セミの自然史、鳴き声に聞く種分化のドラマ、179pp、(財)日本自然保護協会、1994、指標生物 自然をみるものさし、360pp、
大阪市立自然史博物館、2008、鳴く虫セレクション、東海大学出版会、331pp、
徳江義宏・今村史子・大澤啓志、2013、都市域の樹林地におけるセミ類の生息分布を規定する環境要因、ランドスケープ研究、76(5)：465-468